

# Plummer-Vinson 症候群の1例

川崎医科大学 内分泌外科

藤本 英雄, 原田 種一, 松土 昭彦  
大向 良和, 妹尾 亘明

(昭和55年3月18日受付)

## A Case of Plummer-Vinson Syndrome

Hideo Fujimoto, Tanekazu Harada  
Akihiko Matsudo, Yoshikazu Omukai  
and Tsuneaki Senoo

Division of Endocrine Surgery, Department of Surgery,  
Kawasaki Medical School

Soichi Nishisita  
Department of Radiology

(Accepted on March 18, 1980)

**Plummer-Vinson** 症候群は、低色素性小赤血球性貧血、舌炎、嚥下困難を三主徴とする昔から有名な疾患であるが、その頻度は稀である。

また、本症候群の嚥下困難の原因の1つに頸部食道の **cervical web** をあげる人もいるが、その典型的なX線像をとらえた報告は少ない。

今回我々は、三主徴をすべて伴い、X線上にも典型的な **cervical web** を呈する症例を経験したので報告する。

Plummer-Vinson syndrome is uncommon but a well-known disorder being accompanied with its triad of hypochromic microcytic anemia, glossitis and dysphagia, according to previous reports, the cause of dysphagia of this syndrome may be due to the cervical esophageal web, but its typical x-ray findings have been rarely demonstrated.

We report a case of Plummer-Vinson syndrome having the typical triad and radiographic cervical web.

### はじめに

生体内に慢性の鉄欠乏状態が存在すると、皮膚・粘膜の萎縮、爪の変化を生じる。そして、消化管粘膜も萎縮に陥るため、胃液分泌障害や嚥下困難を起こしてくる事はよく知られている。

Plummer と Vinson は 1922 年、食道上部の痙攣性嚥下障害、ヒステリー様嚥下障害を1つの症候群として報告し、その後、舌炎・口内

炎及び貧血が加えられた。

本邦においては過去10年間に、著者の調べた限りでは20例程の報告をみるにすぎない稀な疾患であるが、我々も同症候群の1例を最近経験したので報告する。

### 症 例

患 者: 65歳, 主婦

主 訴: 嚥下困難

既往症：昭和37年，子宮筋腫及び虫垂切除  
昭和51年，心肥大．昭和52年，甲状腺部分切  
除術（橋本病）

家族歴：姉・心臓病，長兄・食道癌，次兄・  
胃癌

現病歴：近医にて昭和43年以来，慢性甲状  
腺炎の治療を受けていた．また，20年前より時  
々嚥下困難があった．昭和52年12月，某医で  
頸部食道の狭窄を指摘された．昭和53年1月，  
当科を受診した．

入院時所見：体格中等度．性格は温厚で，特  
にヒステリー気質とは思われない．脈拍84/分  
整．血圧138/90 mmHg．皮膚，爪，口腔粘膜，  
舌及び表在性リンパ節など異常を認めず．残存  
歯牙全抜去，総義歯である．眼瞼結膜中等度の  
貧血で，眼球結膜黄染はない．腹部は平坦で圧  
痛部，腫瘍なく，肝・腎・脾を触知しない．胸  
部は異常なし．その他の理学的所見に異常なく，  
性格は温厚であり，WAIS, MMPI などの  
心理テストでもヒステリー気質は認められな  
い．

検査成績：MCV, MCH の低下を認め，小球  
性低色素性貧血を呈し，また，血清鉄が著明に

Table 1. Laboratory data on admission

一般血液検査:	血沈:		
RBC 432 × 10 <sup>4</sup> /mm <sup>3</sup>	1h.s.	50mm	
WBC 4900/mm <sup>3</sup>	2h.s.	82mm	
Ht 29.3%	血清鉄:	15μg/dl	
Hb 9.6g/dl	TIBC:	315μg/dl	
MCV 68μm <sup>3</sup>	血清蛋白分画:		
MCH 22.3ρg	γ-glb	33%	
MCHC 32.8%	その他:	すべて正常	
N. Seg. 45%			
Eos. 2%			
Lympho. 47%			
Mono. 6%			

低下し鉄欠乏性貧血を示していた．その他の異  
常所見は認められなかった (Table 1)．

食道造影：食道入口部直下 C<sub>5</sub> の高さで前壁  
から帯状の切れ込みを認め，このための食道狭  
窄像を認める．その辺縁は整であり，典型的な  
cervical web の像と思われる (Fig. 1)．

食道鏡検査：食道後壁よりの粘膜の膨隆を  
軽度認めたのみで，明らかな web は確認でき  
ず，また，粘膜の角化，剥離，腫脹，及び前癌  
病変などはみられなかった．

治療及び経過：鉄剤投与の結果，約2週間で

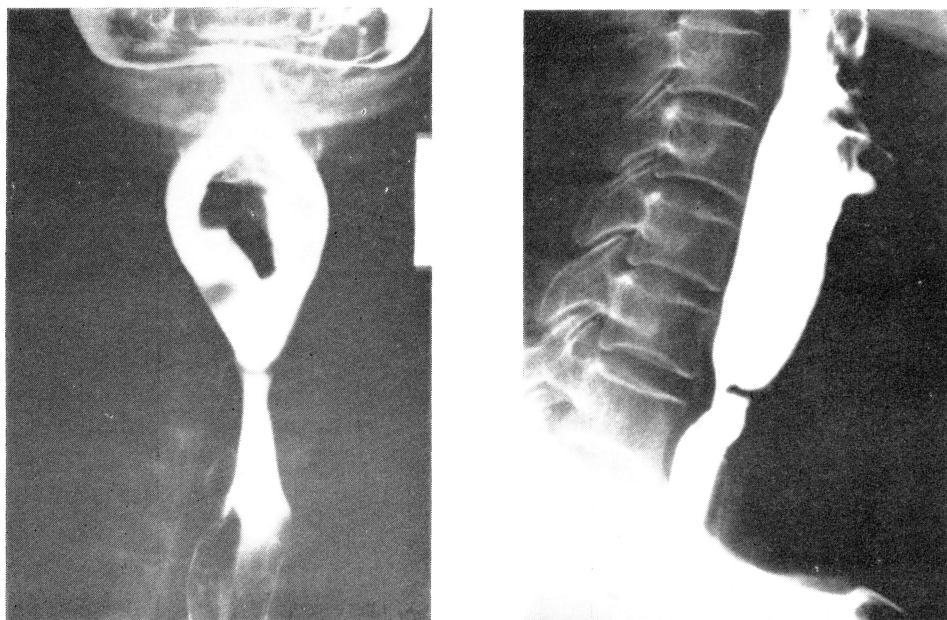


Fig. 1. The typical esophageal web is demonstrated by upper GI series.

MCV, MCH, 及び血清鉄が上昇し鉄欠乏性貧血の改善をみると同時に嚥下困難も消失した。

## 考 察

本症候群が30歳から50歳で女性に多いのは、慢性的な失血や鉄需要増大の機会が多いためと思われる。鉄には上皮構造を完全に保つ役割があり、その不足による代謝異常は、粘膜の萎縮性変化を来して口腔症状を呈し、同様に爪の変化をきたすものと考えられる。

また、本症候群の貧血は低色素性貧血により特徴づけられるが、嚥下困難の発現との間の関係については、貧血が起因となるのかあるいは嚥下困難による食餌摂取の障害が二次的に貧血を招来するかの点に関しては議論の多いところである<sup>4)5)</sup>。

本症候群の嚥下困難の原因については、器質的及び機能的原因を主張する者の2つに大別される。すなわち、McGee et al.<sup>1)</sup>の剖検例では食道上半部の粘膜腫脹、剝離及び筋層の肥厚を認めたとし、また、Suzman<sup>2)</sup>も舌、下咽頭、食道には上皮剝離、角化、筋層の退行変性がみられたが、両者とも筋層間神経叢には異常は認めなかったと述べている。

このような器質的变化を主張する者の他に、機能的原因としてHurst<sup>3)</sup>は食道入口部粘膜の萎縮に伴う同部のneuromuscular disorderが原因であると述べている。すなわち、同部の神経終末、Auerbach神経叢の萎縮に伴う刺激伝達の障害が同部括約筋の弛緩不全を起こすとし

て、早期には同部の神経筋組織の異常興奮性のため痙攣が起こると述べている。

本症候群のcervical webは、食道粘膜及び粘膜下組織に退行性変化を起こし、その結果X線像上で下咽頭の下縁で食道入口部の場所に狭窄を形成する食道の痙攣と小さな線維性皺壁、すなわち“fibrous webs”によるもので、食道頸部前壁に多く、進行すると食道入口部の空間に、直径1/3~1/2まで狭窄を来し広汎な縮小を示す場合もある。本症例において、食道透視で典型的なcervical webの像を呈していたのに食道鏡検査では器質的病変はみられなかった点より、本例の嚥下困難は、Suzman<sup>2)</sup>の報告の如く貧血に伴って口腔、咽頭、食道などの粘膜及び筋層の萎縮がおこり、さらにHurst<sup>3)</sup>の述べるneuromuscular disorder、つまり嚥下及び食道運動に関与する諸筋の刺激伝達が障害された結果として生じたものと思われる。このような状態が癌を発生せしめるとの意見もあり、事実、本症候群と口腔、咽頭、喉頭、上部食道の癌化との合併報告も多く見られる<sup>6)7)8)</sup>。本例においても、今一度食道鏡検査による生検を試みる予定である。

## お わ り に

典型的なX線像を呈するPlummer-Vinson症候群の1例を報告し、若干の文献的考察を加えた。

本症例の主旨は第75回岡山外科学会に於て報告した。

## 文 献

- 1) McGee, L. C. and Goodwin, T. M.: Ann. int. Med., 11, 1498, 1968
- 2) Suzman, M. M.: Arch. int. Med., 51, 1, 1963
- 3) Hurst, A. F.: J. A. M. A., 102, 582, 1964
- 4) 木内宗甫, 新井 峻: Plummer-Vinson 氏症候群の1例. 日本耳鼻咽喉科学会会報 67, 37, 1972
- 5) 藤林孝司: Plummer-Vinson 症候群の例. 日本口腔外科学会雑誌 17, 357, 1973
- 6) 片山憲特: Plummer-Vinson 症候群に合併した頸部食道早期癌の1例. 日本消化器病学会雑誌 72, 54, 1975
- 7) 林 進武: Plummer-Vinson 症候群, 歯界展望 43, 567, 1975
- 8) 小牧専一郎: Plummer-Vinson 症候群2例報告及び文献的考察. 日本医学放射線学会雑誌 30, 868, 1971